

2025 年 3 月 8 日

2024 ウィンタースクール レポート

東京大学法科大学院 2 年（参加時） 西藤 誠

1 ウィンタースクールへの参加を決めた契機

私はこれまで日本の実定法を中心に学修してきましたが、今学んでいることを相対的に位置付けてみたいと思っていました。そうしたところ、ちょうどウィンタースクールの募集を見て、良い機会になると思い応募しました。将来的には、外国のクライアントに日本法をうまく説明できるようになりたいと思っているため、その練習の機会にもなると思いました。

なお、参加時に英語力への自信はあまりなかったのですが、積極的にコミュニケーションをとる強い気概があればプログラムを乗り切ることができましたし、海外の学生とも仲良くなれました。

2 ウィンタースクールの講義について

法学政治学研究科の教授が英語で日本法の特徴や問題点等について講義をしてくださりました。授業の方法は、講義ベースであったりディスカッションベースであったりと先生によって違う形でしたし、授業内容も法社会学、国際法、刑事法、経済法、知財・エンタメ法、データ関係法、会社法と多岐にわたり、それぞれ味があって面白かったです。ディスカッションや質疑応答では、様々な国の学生が鋭い意見や質問をぶつけており、とても刺激的でした。学生のレベルが高くて当初は圧倒される気持ちもありましたが、せっかくの機会なので思ったことは積極的に発言するようにしました。色々な意見が出ましたが、お互いの意見を尊重し合う土壌があったと思います。

3 事務所訪問・最高裁訪問について

プログラムには事務所訪問と最高裁訪問が組み込まれており、日本の法曹界を牽引されている先生方とお話しする、とても貴重な機会となりました。事務所訪問では、いわゆる五大法律事務所のどこかに訪問させていただき、先生方から事務所や案件等について紹介を受けました。最高裁では、裁判所の建物のツアーをしていただいた後、宇賀判事からご講話をいただきました。私自身は大手法律事務所のことも最高裁のこともある程度分かっていたつもりでしたが、それぞれ英語での説明を聞いたことで、新たな発見がありましたし、また自分が将来外国の方に日本の法システム等を説明する参考になりました。

4 鎌倉訪問その他自由時間について

放課後等に、海外から参加している学生と色々な場所に行ったのも楽しかったです。

最終日にみんなで鎌倉に行きましたが、それ以外にも放課後に新宿や銀座など、東京の街と一緒に散策したりしました。私がお場所のガイドをすることになりましたが（その際できればガイドブック等載っていないことを話すよう努めていました）、海外の学生と一緒に行くことで、新たな視点を得ることもできました。また、お互いの文化や言語を紹介したり、たわいもない話をしたりする時間もとても楽しかったです。ウィンタースクールで出会えた仲間とは、きっと法曹界と一緒に仕事をする関係となり、一生の付き合いになると信じています。

以上